

発刊にあたって

金城学院大学 学長 奥村 隆平

この度、WINDOWS第5号をお届けできることを嬉しく思います。2015年3月に大学基準協会より、金城学院大学は大学基準に適合していると認定されました。これは、2007年度に続く2回目の大学評価になります。今回は、2007年度の大学評価の時点で完成年度に達していなかったために対象から外れていた薬学部も評価対象になっているだけでなく、2008年度以後の本学の教育・研究体制の改組・整備の進展を反映したものとなっています。

そのような改組・整備の主なものをあげれば、

2009年：文学部の言語文化学科を外国語コミュニケーション学科に、人間科学部の芸術表現療法学科を芸術・芸術療法学科に名称変更しました。また、中区栄に金城学院大学サテライトを開設しました。

2010年：生活環境学部の生活環境情報学科を生活マネジメント学科に、現代文化学部の福祉社会学科をコミュニティ福祉学科に名称変更しました。

2011年：人間科学部心理学科を発展させ、多元心理学科を設置しました。

2012年：現代文化学部を改組し、国際情報学部を設置しました。

2013年：人間科学部芸術・芸術療法学科を改組し、文学部音楽芸術学科を設置しました。

2014年：「KMP21」の進行により、エラ・ヒューストン記念礼拝堂、及びN1棟・N2棟が竣工しました。

さて、大学評価結果のポイントを引用すれば、次のようになります。

「貴大学では、学生のキャリア形成において進路選択を支援する体制が組織的、体系的に整備されている点や、新たな『特別研究期間制度』の導入により若手教員の人材育成が行われている点が特色となっている。」と高く評価されている反面、「しかし、多くの学部・学科の4年次において1年間に履修登録できる単位数の上限を設けていない点や、事務組織に関する各種規程の未整備などの管理運営の面で課題が見受けられるので、改善が望まれる。」と苦言を呈されている点もあります。

しかし、改善要請のあった第1点のキャップ制については、2016年度入学生から、すべての学部・学科の全学年に適用する方針が確認され、現在、規

程などの変更の手續きに入っています。また、第2点の事務組織に関する規程の整備はすでに完了しています。

もとより、大学の教育・研究体制及び管理・運営体制の改善は、一時の大学評価のみに基づいて行われるべきものではなく、絶えざる自己点検と評価に基づいて行われるべきものであります。今後も、継続的にPDCAサイクルをまわして、改善を続けていきます。

最後に、大学評価受審にあたり多大な貢献をしてくださった副学長、学長補佐、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、各センター長、各部局の代表者、自己評価委員の方々、また、WINDOWS第5号の取りまとめに協力してくださった方々に心より感謝いたします。